

証

マタイによる福音書 6 章 25 節「だから言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。」

人間の命はいつどこでなくなるか分かりません。1年前に私の祖母は亡くなりました。亡くなる1年前から重い心臓の病気にかかっていた、治療にあたっている医師には命はそう長く残されていないと言われていました。祖母自身もそのことを知っていました。しかし毎日を懸命に生きる祖母は私たち家族から見れば辛い姿でした。命が長くないと宣告されているのにどうしてなのか、私が尋ねると「残された時間が長くはないと知ったらそれは悲しい。けれど、その自分に残された時間を精いっぱい生きることが大事だと思う。人生はたった一度きりしかないのだから、どんなことがあっても最後まで生き抜くべきだよ。」と言葉を残してくれました。祖母は強い人でした。私はそんな祖母が大好きでした。小さい頃から両親が共働きだったこともあり、よく祖母の家に行っていました。どんなに私が落ち込んだ時も泣いていた時もいつも元気と笑顔をくれて励ましてくれました。そんな大好きだった祖母が亡くなった知らせを聞いて、すぐには信じられず、何も考えられなくなる日々がありました。

ある日の朝の礼拝で読まれたこの聖句に何か心がひかれました。特に最後の箇所「命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか」。大切なものを無くして、大切な人が亡くなって、人は初めてそれらの大切さに気づきます。いつその人との最後が訪れるのかなんて誰にも考えられないことです。いつも当たり前にいる家族や大切な友人が1人でも消えてしまったら、目の前からいなくなってしまうたら、突然亡くなってしまったら、と思うととても怖いことであり、悲しいことです。

私たちはまだまだこれから先の未来を生きることができます。けれどその生きている中では様々な苦難や困難な壁があります。人間誰しも生きていれば、楽しいことや、幸せなこともあれば嫌なこともあります。私たちはその苦難や困難な壁を目の前にした時、どうしたらいいのだろうと悩みに悩んで解決につながる鍵を見つけようとし

ます。「思い悩むな」という言葉の根拠は、神が一人一人を愛しているという事にあります。神は大切なものをご存知な上で、私たちに必要な導きを与えているのです。だからこそ、これからの人生において、どんなことがあっても悔いなく生き続けられるように日々努力すべきです。そして残りわずかな高校生活の中で「共に生きる」ことを大切にしていきたいと思います。